

ワーシップセミナー講義「御霊の働き」

私たちの 召しとは 何か？

ミュージシャンか奉仕者か？

マルコ・バリエントス師

■米国セントロ・インターナショナル・アリエントの主任牧師であり、現在世界で最も油注がれた賛美リーダー。過去ゴスペル部門のグラミー賞に2度ノミネートされる。46の賛美礼拝プロジェクトをレコーディングしたレーベルであるアリエント・プロダクションの創立者で代表。

■この授業では、土台となるものについてお話したいと思います。それは、神様に仕える者としてのアイデンティティーについてです。ワーシップというテーマなので、「ミュージシャンかそれとも奉仕者か」というタイトルのメッセージをしたいと思います。私たちはミュージシャン（あるいは歌い手）である以上に、奉仕者—みことばに仕える者—であるべきです。

「ワーシップリーダー」などという「召し」はない！

■最初から、はっきりとお伝えしたいと思います、音楽は奉仕ではありません。ワーシップをリードするのも実は奉仕ではありません。音楽を演奏することも、それ自体が奉仕ではありません。ミニストリーという言葉で「奉仕」や「仕える」と訳すなら、ワーシップをリードするミニストリーも奉仕の一部であると言うことはできるでしょう。しかし、はっきりと言いますが、「楽器を演奏する事はあなたの奉仕です」と言うことはできません。あなたの「召し」と言うこともできません。私はワーシップをリードして約30年が経ちますが、神様が私を「ワーシップ・リーダー」として召して下さっているかもしれない、と思っていた時もありました。しかし、そのような召しはない、ということが今はハッキリとわかりました。神様はあなたをワーシップ・リーダーとして召すではありません。神様があなたを「ピアノの演奏者」とか「ドラムの演奏者」として召すのではないの

です。「じゃあ、音楽を演奏することや、ワーシップをリードすることが奉仕ではないとしたら、私の奉仕は何ですか？」と思う方もいるでしょう。「あなたは私の奉仕を取り上げるのですか？」と思っている方もいらっしゃるかと思います。そうではないのです。あなたには、あなたの奉仕があるのです。それでは、あなたのミニストリーとは何でしょうか？それは、『御霊の働き』なのです。とても霊的に聞こえるけれど、あまり実践的には聞こえないかもしれませんね。ちょっと説明しましょう。

「音楽」は道具にしかすぎない！

■音楽は道具です。「音楽＝道具」です。ワーシップ・リードは、一つの機能です。それらは奉仕ではありません。それぞれ、とても大切な機能であり、道具であることは確かです。私たちの道具箱にはこれらは必ず入れておくべきでしょう。大工さんは、道具箱の中にたった一つの道具を入れているわけではありません。たとえばノコギリやのみ、ねじまわしなど、たくさんの道具を使います。私たちも同じように、たくさんの道具の入った道具箱を持っているのです。もしあなたが楽器を演奏するならば、それは素晴らしいことです。とても力強い道具です。でも、それだけで



を・・・」の『仕える者』のギリシャ語 *huperetes* は、「下の漕ぎ手、下位の漕ぎ手、手を使って仕える人」という意味です。この節をよく見て下さい。「みことばに仕える者」とあります。これは非常に実践的な意味で使われています。実は新約聖書は「音楽」という役職とか、「ワーシップ・リーダー」という立場については一切言及しておらず、「歌い手」や「タンバリン奏者」という肩書も出てきません。しかし、「預言する人、奉仕する人、教える人、勧めをする人、分け与える人、指導する人、慈善を行う人」という表現は出てきます。ここに「勧めをする人」という言葉が出てきますが、「勧めをする」という言葉には、とても力強い意味があります。フランス語やスペイン語で「勧めをする」というのは、人を矯正するときに使う言葉なのですが、原語のギリシャ語では、「間違ったことを罰する」というような意味ではなく、むしろ「倒れてしまった人を励まして建て上げる」という意味があります。もともとの原語の意味は、言葉を使わないほうが伝わります。「励ます」とはこういう意味です。倒れてしまった人を起こし、支え、強め、共に歩む、ということなのです。倒れてしまった人は、自分に自信をなくし、傷を受けているでしょう。ですから、励まし、勧めが必要なのです。音楽という力強い道具を用いながら、「音楽だけ

が私の奉仕だ」と考えているなら、そこまでです。将来神様が何をなさろうとしているかという事に対する燃えるような情熱は持たないで終わってしまいます。しかし、楽器を演奏することは、道具であり、音楽という翼に乗せて御霊の働きを運ぶことなのです。

「奉仕者」とは神の御霊に仕える者！

■御霊の働きというのは、イザヤ書 61:1-3 節に書かれています。「神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕われ人には解放を、囚人には釈放を告げ、主の恵みの年と、われわれの神の復讐の日を告げ、すべての悲しむ者を慰め、シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。」この聖句を一言一句見ていくと、三つのことがでてきます。「灰」の代わりに「美しさ」を、「悲しみ」の代わりに「喜びの油」を、「憂いの心」の代わりに「賛美の外套」です。これこそが聖霊様の働きであり、あなたの働きなのです。私の中には火があって燃えています。私には、この世代のために心からの叫びがあります。なぜなら、この世界には傷ついている人がたくさんいるのです。そして敵に縛られています。ですから、私たちは単にミュージシャンではなく、奉仕者、ミニスターにならなければならないのです。それでは、自分が単にミュージシャンではなく、神に仕える奉仕者であることをどのようにして知るのでしょうか？非常にシンプルです。たとえばあなたがピアノを弾いたり、歌を歌う時、どんなことが起きているのでしょうか？人がただあなたの音楽を楽しんでいること以上に、もし何も起きていないのだとしたら、自分は単なるミュージシャンではなく神に仕える奉仕者だ、ということはまだ理解していないのだと思います。私の質問はこれです。「私たちはいつまで、ただ歌い、ただ音楽を演奏していればいいのか？」私たちの中には、神の御霊に仕えることのできる資源がすでにあるではありませんか。あなたが演奏するとき、あなたの手の中には能力があります。あなたの心の中にあることだけを伝達するだけではなく、神様の心の中にあることを伝達する力があなたにはあります。あなたが演奏するとき、ひとつの周波数があります。あるトーンがあり、それが楽器から発生されます。それは普通の周波数とは違います。ただキーボードを叩いている人とは違う周波数が発生します。全く別な周波数やトーンが発せられるのです。もしグラフィックアナライザーがあれば、私が今言おうとしていることを、お見せする事ができると思います。ただ演奏し、ただ歌っているのではなく、御霊をいただいている人が演奏し、歌うとき、全く別の周波数やトーンが発せられるのです。ですから、空气中を単にメロディーが伝わっていくだけではないのです。そこには人を解放するためのある種のものが発せられているのです。